

令和7年度

教育委員会事務の点検及び評価に関する報告書

令和8年9月

里庄町教育委員会

I はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という）により、全ての教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し議会に提出するとともに公表しなければならないことになっております。

本報告書は、地教行法第26条に基づき、令和7年度の点検及び評価を行い、報告するものです。

〈参考〉

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 点検及び評価の方法等

1 対象

令和7年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況

2 報告

令和8年9月3日 議会に提出

3 公表

教育委員会事務局での閲覧

町役場の掲示場に掲示及び町ホームページでの公開

III 点検及び評価

1 教育委員会の組織・活動

（1）会議の運営等

教育委員会議は、定例会を毎月1回（令和7年度：計12回）開催しました。（※資料1）全員が出席し、十分な時間をかけて審議及び協議を行い、充実した運営となっています。審議を深めるための工夫として、事前に事務局に議案書及び関係資料を提出させるよう努めるなど、今後も引き続き改善したいと考えています。

町長とは、総合教育会議（10月及び2月）において、「第3次里庄町教育大綱の策

定について」「里庄町立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画の策定について」を議題として、意見交換や協議、支援の要請などを行うとともに、諸行事で会う機会を通じて意見交換等を行うなど、連携を強化することに努力してまいりました。今後も町当局との連携を図り、一貫した教育行政を進めることが重要と考えています。教育委員と町長との懇談や意見交換は、両者の円滑な連携と一貫性を図るために重要であると考えており、今後も引き続き実施したいと考えています。

事務局の職員体制については、必要な施策に応じた人員の配置や事務の適正化等を図っています。学校教育については、学校の指導支援を行う指導主事を継続して配置するとともに、多様化・複雑化する課題などに対応し、指導支援の充実を図るため、引き続き町費により指導主事を配置し、複数人体制によるきめ細やかな指導支援を行っています。また、地域と子どもたちを結ぶ教育コーディネーターも継続して町費で配置し、学校教育・社会教育の両面にわたり、専門性を高める取組を行っています。今後も、事務分掌の見直し等を図りながら効果的な体制の整備を図る必要があると考えています。

地域の実情に応じた施策及び地域住民の意向を施策に反映することについては、各校の学校運営協議会の意見に加え、様々な機会を通じて、地域と学校とが協働しながら教育の推進を図っています。これからは、学校教育及び社会教育の両面で工夫や努力が一層求められており、今後も鋭意検討を続けたいと考えています。

教育委員の研修等については、岡山市町村教育委員会連絡協議会主催のオンラインでの研修会に参加しました。今後も委員としての識見の向上と、当町の幼児・児童・生徒の学力向上対策や豊かな成長が推進されるよう、努力してまいります。また、岡山市町村教育委員会連絡協議会総会（書面開催）のほか、学力向上対策については、先進地の教育委員会及び学校訪問等を通じて、具体的な取組を研修することを目的に、県外視察研修を実施しました。（※資料２）

幼稚園、小・中学校の行事や教育委員会主催の行事にも積極的に参加し、実情を理解しました。（※資料３）また、幼稚園、小・中学校の現状把握のために毎年実施している幼稚園、小・中学校訪問では、学校（園）の授業の様子等を参観し、取組の成果や課題について、把握することができました。その後、教育委員の見解を聴取したうえ、教育委員会の審議及び協議に役立て、可能な限り学校（園）への支援を行いました。

それ以外にも、教育長、指導主事等が定期的に学校や社会教育関係施設の訪問を限られた時間の中で実施し、現状把握を行ったうえで、教育委員会等に対し、業務の見直しや施設の改善を提案しました。

学校では、教育課程や実施体制の見直しを行い、時間割を工夫することで、教職員の働き方改革を進めました。

（２）公開性

教育委員会が、町民にとって身近なものとなるよう、可能な限り情報を公開する方針のもとで、定例会の開催予定及び議事内容を町ホームページに掲載しています。議事内容については、プライバシーや個人情報等で配慮を要する事項も多くありますので、内

容の公開につきましては、今後も慎重に進めていきたいと考えています。

町主催の分館長会議では、教育長及び教育委員会事務局職員が出席し、町民の方々から教育行政等についての意見や要望等が出た場合には、教育委員会で十分な協議を行っています。公聴活動は、町民の意志を反映した教育行政を推進するためにとっても大切なことですので、町民の方々からの意見や要望等をしっかりお聞きするとともに、教育行政施策の広報について、引き続き積極的に行いたいと考えています。

また、教育委員会及び学校（園）の取組を紹介した「里ちゃんだより」（※資料４）を年３回発行し、町内全戸へ配付しました。

２ 教育委員会が管理執行する事務

（１）基本的・総務的事務

教育行政重点施策（※資料５）の策定など基本方針の多くは、事務局に原案や資料を提出させ、教育委員会として慎重に審議することができています。

教育関係予算については、幼稚園、小・中学校等の要望を聞き、現場の状況を確認しながら、教育長等が町長へ要求し、教育委員会としての意見を尊重した議案が議会へ提出されるよう努めています。

従来から当町の教育予算の比率は高く、教育が重要視されています。引き続き教育予算編成の協議に多くの時間を費やし、里庄町の教育がより充実するようにしていきたいと考えています。

（２）人的管理に属する事務

町立小・中学校の校長等の任免について県教育委員会に対して内申を行っています。今後とも慎重に行っていきたいと考えています。文化財保護委員等各種委員の委嘱または任免は、教育委員会で議決しています。人的管理に属する事務については、県教育委員会及び町長部局との連携をより密にしていこう努めてまいります。

学校関係職員の研修は計画的・効果的に実施され成果が上がっています。本年度の教職員研修会は、幼稚園、小・中学校の教育職員を対象に、ワークショップ形式で研修を行いました。「里庄町の子どもたちの力を伸ばすために」をテーマに、教科ごと、分掌ごとのグループを編成して協議を行い、各学校（園）での実践とこれからの取組のポイントについて学び、学校（園）での子どもの指導・支援に生かしました。

また、学校における働き方改革の実現のため、「里庄町立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」を令和８年２月に策定し、本計画に基づく教職員の勤務状況の改善や働きやすさの確保を図り、生きる力を育む学校教育の充実の実現につなげていくこととしています。その中で、令和７年度も、外部人材の活用や支援員等の配置、中学校における部活動休養日の設定、夏季休業中（８月１０日～１６日）及び冬季休業中（１２月２８日～１月４日）の学校（園）完全閉庁期間の設定、幼稚園、小・中学校での「自動音声対応電話」による対応、学校・家庭連絡システムの活用など、学校現場における働き方改革として、具体的な取組を実施しました。

運動会や修学旅行、学習発表会などの学校行事については、様々な感染症に配慮しつつ、開催内容の検討を行い工夫しながら、実施することができました。

小学校放課後児童クラブや幼稚園預かり保育の支援員も含め、学校教職員、生活支援員や教育委員会が一丸となって、子どもたちの居場所づくりや心のケアに努めた1年間となりました。

3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

(1) 学校教育

小・中学校の全国学力・学習状況調査の結果は、概ね全国平均のレベルにあります。町としての学力向上の方針を示し、各学校も学校としての学力向上策を定めて鋭意努力しています。

教育委員会としても、学力向上を図るためのソフト面やハード面の予算を確保するとともに、町内の学校（園）の教育職員等を対象とした教職員研修を実施しました。

いじめ・不登校の解消に向けては、引き続き町をあげて重点的に取り組みましたが、登校できにくい児童・生徒が複数名います。令和7年度は、里庄西小学校に「自立応援室（ほっとルーム）」を開設し、登校できても教室には入りづらい児童の居場所として運用を開始しています。また、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーとの連携や、浅口市と協定を結び、「浅口大簡塾（適応指導教室）」が利用できる体制を整えています。今後も継続して解消を目指して取り組んでまいります。

特別支援教育については、特別支援学級・通常学級において指導の充実を図っています。町の教育相談員が学校の要請により学校を訪問し、具体的な指導方法について支援しています。また、生活支援員を対象に特別支援教育への理解と支援技術の向上を目的として、研修会を年間2回実施しています。

小学校の通常学級に在籍している発達障がいのある児童は、日常生活での様々な場面で困難さを感じています。その解消のため、児童が在籍している小学校での指導を行うとともに、浅口市立六条院小学校内にある自閉症・情緒障害通級指導教室「あすなろ教室」を、浅口市と協定を結び利用可能とすることで、一人ひとりの児童に応じた個別の支援が受けられるようにしています。そうすることにより学習や友達関係、コミュニケーション面の不安を解消し、感情のコントロールの方法などを身につけていきます。

少子化の進行などを背景に、子どもの育ちが大きく変化しており、様々な要因から小学校の生活になじめないことも見受けられます。里庄町では、「保幼小接続スタンダード」を作成し、保育園、幼稚園、小学校が歩調を合わせ、幼児教育と小学校教育を円滑に接続し、子どもの育ちと学びを滑らかにつなげる努力をしています。

さらに、保・幼・小・中のそれぞれの卒業期の姿を設定することで、就学前から中学校卒業までの11年間を見通した保育・教育が行えるようにしています。各卒業期の子どもの姿や、徳知体の各分野で付けたい力を明確にし、各卒業期における「めざす子どもの姿」を設定しています。これにより、幼稚園の先生が中学校の子どもの姿を意識して保育するなど、子どもの育ちの連続性を意識した保育・教育が行えるようになってい

ます。

子どもたちがこれからの時代を生きていく上で、自分で主体的・自律的にキャリアを切り拓いていくための能力の獲得・向上が必要になります。この力は「非認知能力」と呼ばれています。令和7年度も、元岡山大学の中山氏の指導を仰ぎながら、各学校で「非認知能力」を高める取組を行いました。具体的には、「自分を高める力（意欲・向上心・自尊感情・楽観性等）」「自分と向き合う力（自制心・忍耐力・レジリエンス等）」「他者と向き合う力（共感性・協調性・コミュニケーション力等）」を高めるために、「里庄3シヨンプログラム」を導入しています。年間2回のアンケートを実施し、実態に即した活動ができるようにしています。取組は6年目を迎え、各校は実態に応じて創意工夫をし、学校行事や授業に関連させた活動に広がりを見せています。効果として、児童・生徒が穏やかに学校生活を送れるようになり、意欲の向上や子ども同士の関係性の向上、自主性や自立性も見られるようになってきています。

また、子どもたちが安心して学習や学校生活を送ることができるよう、幼稚園、小・中学校に生活支援員を配置しています。里庄東小学校に6名、里庄西小学校に7名、里庄中学校に3名、里庄東幼稚園に2名、里庄西幼稚園に2名を配置し、落ち着いた学習環境が確保され、十分な成果を上げています。

近年、子どもたちがスマートフォンやゲームを長時間する中で、ネット上のいじめや犯罪被害につながるケースが大きな問題となっています。また、健康面の心配や学習時間の減少など、生活習慣の乱れも指摘されています。令和7年11月現在、小学校4年生～6年生の46%、中学校1年生～3年生の81%の児童・生徒が自分のスマホや携帯電話を所持しています。里庄町では、統一ルールとして、「使うのであれば午後9時までの使用とする。家庭の事情により、家庭内のルールが弾力的になる場合も考えられるが、友達等には、午後9時以降はメールやラインを送らないようにする。」としています。子どもを守るのは、社会の大人全体の責任であり、とりわけ、子どもの一番身近にいる保護者の行動が大変重要となります。そこで、統一ルールと合わせて、家庭内のルール作りを子どもとともに進めていただくよう、各家庭での取組の徹底をお願いしています。

GIGAスクール構想の本格実施に伴い、里庄町の小・中学校では、一人1台コンピュータ端末の導入を行っています。令和7年度も引き続き、児童・生徒が各教科等で必要とされる資質・能力を身につけるため、「一斉学習」「個別学習」「協働学習」の3つの場面での活用を図りました。特に、「協働学習」で活用することを重点とし、協働学習ツールの積極的な活用を進めました。これにより、児童・生徒の主体的・対話的な学習に結びついたり、思考力・判断力・表現力やコミュニケーション力の向上に繋がったりするなど、問題解決型学習のより一層の推進がみられました。また、各教室に導入している電子黒板と併せて活用しながら、子どもたちにわかりやすい授業の展開を図ることができました。

子どもたちの英語によるコミュニケーション能力の向上に努め、グローバルな人材の育成を目的とした外国語指導助手（ALT）については、令和元年度から自治体国際

化協会の語学指導等を行う外国青年招致事業「JETプログラム」を活用し3名を採用しています。ALTを各学校に1名配置し、学校、幼稚園、保育園等での英語教育及び国際理解教育の充実を図っています。

部活動の地域展開については、現在、中学校の柔道部が地域スポーツ団体において活動を行っています。今後も、他の部活動の状況や国、県、近隣市町の動向を踏まえ、状況に応じて計画的に進めていくこととしています。

里庄町では、食事を人づくりの上でとても大切なこととして捉え、子どもたちの身体や心を育てるために重要である学校給食に力を入れています。小学校では、新型コロナウイルス感染症の影響により控えていた全校児童の食堂給食を再開し、給食を通じての人間関係の形成を図っています。なお、昨今の物価高騰の影響により、令和7年度から給食費単価の引上げを行わざるを得ない状況となりましたが、国の物価高騰対策の交付金を活用して、引き上げた給食費の補助を行うことで、子どもたちの食の安全・安心及び給食の質を確保するとともに、保護者の負担軽減を図りました。

また、様々な理由で義務教育の機会が十分に得られなかった方の学び直しの場として、岡山市が設置している「岡山後楽館中学校夜間学級（夜間中学）」への入学について、岡山市と協定を締結し、学びの機会の確保に努めています。

学校等の教育施設における環境改善を図る取組について、里庄東小学校では、老朽化による屋外トイレ棟の建替え工事やプール漏水一部改修工事を行い、里庄西小学校では、経年劣化により傷みが著しい受水槽床防水工事を行うとともに、遊戯施設の一部の更新を行いました。

里庄中学校では、消防用設備の一部改修工事を行うなど、施設の維持補修に努めるとともに、老朽化に伴い実施する屋内運動場の長寿命化改修工事に係る調査設計積算を行いました。

また、里庄東・西小学校の受変電設備の更新に係る設計積算を行いました。

里庄東・西幼稚園では、遊戯施設の一部を更新するとともに、里庄東幼稚園で空調設備の一部更新を行うなど、施設の維持修繕に努めました。

（２）社会教育

公民館講座をはじめとした生涯学習については、町民のニーズに応じた各種講座を開設しており、多くの方が文化活動を通して生きる喜びを感じ、生涯を通じて学習できる環境を提供することにより、自己実現を図っています。今後も、企画運営を受講者自身が行う講座となるよう、一層の充実に努めます。

家庭教育については、家庭教育支援チーム「さとりんぐ」を発足し、チームのファシリテーターを中心として、小学校入学前の就学前健診や中学校入学説明会などの機会を利用した子育て講座を実施しました。講座では、岡山県が開発した、親自身の学びや成長を支援する参加型ワークショップ「親育ち応援学習プログラム」（通称：親プロ）を活用し、保護者同士が子育ての悩みを共有し、一緒に考える機会を提供しました。今後も、家庭教育支援事業の質の向上や継続・充実に努めていきます。

学校の授業だけでなく、子どもたちが自ら学び体験することで生きる力を育み、地域全体で子どもを育てていくことを目的として、平成28年度から開始した「さとしょう未来塾」事業も、令和7年度末で10年となりました。自学自習を基本とした学習に取り組む「里ちゃん寺子屋」と、様々な体験を通じて子どもたちが「生きる力」を身につける「里ちゃんチャレンジ・ワールド」の2本の柱で、計画どおり実施し、地域の方々や文化協会会員、虚空蔵大学生などの協力を得ながら、地域の子どもは地域で育てることをコンセプトに取り組みしました。夏季休業中には、「サマー・チャレンジさとしょう」として、夏の静寂の中で行う4日間の暁天座禅をはじめ、地元の歴史を改めて見直し、地域の方々の支援をいただき実施する大原焼体験、地元企業のご協力のもとで行う木工教室や焼き菓子作り体験を行いました。また、子どもたちがお互いに協力しながら共同生活をする冒険キャンプの実施など、子どもたちが普段経験できない事業となるよう検討・工夫を行いました。（※資料6）

町立図書館は、順調に蔵書数を増やし、令和7年度末に16万8千点余りとなりました。利用状況については、新型コロナウイルス感染症の影響がほぼ無くなり、1年を通して通常の業務を実施することができています。令和7年度の開館日数は273日、来館者は5万6千人を超え、令和6年度とほぼ同じ状況となりました。一方、貸出冊数は、約1万4千人の方に約5万9千点の貸出を行い、やや減少となっています。

令和7年度の活動実績として、展示関係では、文化協会関連のもの、幼稚園、小・中学校関連のもの、里庄町出身の方の絵画展など、大小あわせて20の展示を行いました。催し物関係では、ボランティア団体「おはなしトロ」の協力をいただき、年4回のおたのしみ会をはじめ、司書による毎月第2日曜日のおはなし会、図書館講座として、こども防災教室や、金田一耕助シリーズで知られる推理作家の横溝正史についての講演などを行いました。

さらに、佐藤清明資料保存会の活動拠点（事務局）として、年間を通して「清明研究会」や「清明を読む会」などの活動に取り組んでいます。特に、毎年開催している「里庄のせいめいさん」展は、多くの方々に好評をいただいています。

子どもたちのための図書を充実させることを目的として、「ふるなびクラウドファンディング」でいただいた善意の資金をもとに、小・中学校や幼稚園、放課後児童クラブと合わせて、図書を購入・整備させていただき、読書環境の充実を図りました。

また、館内の「おはなしの部屋」は、子どもたちが喜んで本に親しめる環境づくりと、乳幼児と親子が安心して利用できる場所として親子が読みたい本を自由に手にして読むことで、読書の習慣づけができると大変好評をいただいています。

今後も、県立図書館や高梁川流域7市3町の図書館相互利用等、生涯学習の拠点施設として、町内外から好評をいただき、加えて、全ての世代の方々がより楽しく安全安心に施設を利用し、図書館の魅力を再発見していただけるよう、毎月の展示やおはなし会の充実を図り、新たな図書館講座の開催や催し物をより一層楽しいものに改善するなど、様々な取組を行ってまいります。

人権教育については、岡山県男女共同参画推進センター女性活躍推進員の横山浩花

氏を講師に、「小さな気づきが大きな一歩に！－暮らしの中にある無意識の思い込み－」と題して、人権意識の高揚に関する人権教育講座を実施しました。また、幼稚園、小・中学校のPTA会員を対象に、各学校（園）において研修会を実施しました。今後も状況の変化に適切に対応しつつ、事業の改善等を進めていく予定です。

文化の振興に関しては、総合文化ホール「フロイデ」や福祉会館、中央公民館などを有効に活用し、町民自らの活力や、行政と町民との協働によって得られるエネルギーを生かしながら、町民のニーズと本町の実情に合った事業を展開してきました。文化ホール事業では、里庄町制施行75周年記念事業として、NHK「ラジオ深夜便のつどい」公開収録や宝くじ文化公演「コロッケ with ものまね芸人爆笑！スペシャルライブ」を開催することができ、音楽や芸能の素晴らしさを実感してもらうことができました。一方で、施設の老朽化などの課題に対しては引き続き取り組む必要があり、今後も一層の改善、充実に努める必要があります。

歴史民俗資料館では、里庄町の偉人である仁科芳雄博士や小川郷太郎先生に関する遺品や、大原焼、麦稈真田（ばっかんさなだ）関係の道具類、昔から使用されてきた生活道具や農具などの展示公開を行っています。今後も、文化財保護委員と学芸員が連携して、館内収納物の整理や、開館日の変更・周知方法について検討してまいります。

文化財保護委員会は、教育委員会の諮問に応じて、文化財の指定・解除、保存及び活用に関し必要な事項を調査・研究し、教育委員会に答申しています。令和7年度は、「財政通の小川」として知られる小川郷太郎先生の顕彰事業として、冊子編集委員を中心に、小川先生の半生をまとめた冊子『小川郷太郎の人生』を刊行し、在りし日の小川先生を偲び、その業績を称えました。また、町制施行75周年記念事業として、冊子編集にもご協力いただいた吉野浩司氏による「小川郷太郎の人生　ーグローバルな学びと政治への貢献ー」と題しての講演や、山田方谷の研究者である野島透氏による「日本財政学の礎を創った小川郷太郎　～トマト銀行の設立、中国銀行の発展にも寄与～」と題した講演を、歴史講座として開催しました。その他、小学生を対象とした大原焼の制作体験、資料館を会場としたしめなわ飾り作りや絵付け体験など、関係機関・団体の協力のもと、里庄町の歴史や文化について触れるイベントを実施しました。今後も、町内だけではなく町外の文化財研究にも力を注ぎ、文化財保護委員会や学芸員とともに研修等を行ってまいります。

里庄町出身の物理学者である仁科芳雄博士の生家については、「仁科芳雄博士生家修復プロジェクト」により、修復に向けてふるさと納税クラウドファンディングを活用したPRを行ってきました。募集期間が令和9年3月までとなっていることから、引き続き町内外に対するPRに努めてまいります。なお、令和8年3月に、国登録有形文化財としての登録の答申を受けましたので、仁科芳雄博士の足跡を次世代に伝えていくため、「仁科芳雄博士生家修復プロジェクト」と併せて、ふるさと納税クラウドファンディングなどにより、令和9年3月までの募集期間において、町内外に積極的にPRし、生家の保存・改修に努めてまいります。

スポーツの振興については、関係団体の協力のもと、令和7年度も多くのスポーツ事

業を実施できました。町スポーツ協会主催の野球大会やソフトボール大会、弓道教室に加え、生涯スポーツでは、近年人気が高まっているモルック交流会を開催し、多くの方にスポーツに親しむことができる機会を提供することができました。

青少年を対象としたスポーツでは、町内の学童スポーツ団体である、少年野球クラブ、里庄FC、柔道スポーツ教室、剣道スポーツ教室が様々な大会に出場し、日頃の練習の成果を発揮し、各団体が素晴らしい成績を残しています。

町の一大事業である「里庄町民スポーツ交流大会」については、順位を競うだけでなく、幅広い年代の方々にスポーツを楽しんでいただけるよう、種目を工夫して開催しています。令和7年度は、町制施行75周年の記念大会として、笠岡高等学校書道部による書道パフォーマンスや「里庄町〇×クイズ」などを実施し、秋晴れのもと、大人から子どもまで楽しめる思い出に残る大会となりました。

毎年2月に開催している体力づくりふれあいマラソン大会についても、無事開催することができました。また、「晴れの国岡山」駅伝競走大会については、チームを編成し、大会当日はオープン参加となりましたが、「里庄町チーム」として出場することができました。

スポーツ施設の開放事業では、町内の社会体育施設や夜間の学校施設を町内外の多くの方々に利用していただくことができました。

今後も町民の健康づくり・地域の絆づくりのために引き続きスポーツ行事の運営を行ってまいります。

生涯学習施設や文化施設、スポーツ施設など、施設の環境維持の取組についてですが、生涯学習施設である東公民館では、施設の維持修繕のほか、空調機器の一部更新工事を行い、中央公民館・老人福祉センターの複合施設では、屋上屋根の防水修繕のほか、ボイラー設備や灯油陶芸窯などの設備に係る維持修繕を行いました。

文化施設では、里庄総合文化ホール「フロイデ」の屋上屋根の一部防水修繕や、1階多目的トイレや2階楽屋のガス給湯設備の修繕等を行い、環境維持を図りました。

スポーツ施設では、野球場のバックネット部分修繕やカウントボードの改修、駐車場防犯灯の更新を実施しました。

今後も引き続き、計画的に社会教育施設の環境改善を図ってまいります。

Ⅳ 学識経験者の知見の活用

地教行法第26条第2項に基づき、定兼 正明 氏に点検及び評価に関しての助言及び意見をいただきました。

里庄町では、以前から町執行部と教育委員会の間では情報交換が密接に行われ、意思疎通も良好であると感じています。そのことは、学校現場への人的配置や設備投資などの予算面にも表れており、教育に重きを置いた姿勢は評価されるべきものと考えます。

学校教育においては、働き方改革の推進により、かつて「聖職」と言われた教育現場にも波及し、労働環境の改善が進んでいます。しかし、その結果が単なる労働時間の短縮や教育内容の簡素化にとどまるのであれば、長期的には教育の低下につながることを懸念されます。

また、昨今のニュースでは、「トクリュウ」などの匿名・流動型犯罪グループに若者が関わる事例が報じられています。こうした問題の背景には、様々な要因があると考えられますが、家庭教育や学校教育が果たす役割の重要性についても改めて認識する必要があると思います。

子どもや家庭を取り巻く状況が多様化し、教育行政にも多種多様な対応が求められる現在、教育委員会と町行政が一丸となり、今後も「里庄町の教育」の充実・発展に取り組んでいただきたいと思います。

社会教育においては、町民が生き生きと生活できるよう、様々な行事・催しを実施されていますが、今後は町民自身の企画・運営が増える方向になればなお良いと思います。また、生涯学習施設等については、施設の必要性や利用状況を踏まえ、施設の統廃合を含めた大胆な予算措置をすることも必要だと考えます。

これからも安穏と現状に満足することなく、常に改善の余地を意識しながら、これからも教育行政の充実・発展に取り組んでいただくことをお願いいたします。

里庄町社会教育委員に点検及び評価に関しての助言及び意見をいただきました。

- ・各場面において、関係団体と担当者の皆さんの協力・努力が相まって、事業がうまく進められていると思います。また、各事業をボランティア的に支えておられる方々が、楽しみながら関わっておられる姿を見聞きするにつけ、担当者の皆さんの表に現れないご努力に敬意を表する次第です。
- ・少子高齢化やA Iの急速な進展、町職員の働き方や意識の変容など、社会が大きく変化する中、従来の成功事例だけでは対応できない時代となっています。そうした中で試みられている新しい工夫や取組が、少しずつ実を結びつつあるのではないかと感じています。
- ・社会教育に関して、公民館での子どもの成長や教育そして若い人たちから高齢者まで、楽しく絆を深める場となっている。
- ・里ちゃんチャレンジ・ワールド事業の中でも特に、地元企業と連携して実施する事業が大変良い取組なので、今後も継続して実施して欲しい。
- ・令和7年度の事業の多さに驚くとともに、限られた人員の中で、優先順位をつけながら子どもや町民のために尽力されたことが伝わりました。
- ・学校教育における「非認知能力」の育成については、取組開始から6年目を迎えています。町民の中では、まだ十分に浸透し、理解されていないように感じます。子どもを主体とした取組の意義や成果について、学校内だけでなく、家庭や地域を含め、より多くの方に理解していただけるよう、情報発信や周知の工夫が必要だと思います。
- ・G I G Aスクール構想については、実施した取組の内容だけでなく、その成果や課題、今後の方向性等も具体的に記載することで、取組への理解や関心がさらに高まると思います。急速な社会の変化やデジタル化の進展に対応し、これからの時代を生きる子どもたちに必要な力を育むため、I C Tを活用した授業内容や今後の展望を示すことで、さらに興味深いものになると感じます。

V 終わりに

令和7年度の本町教育委員会事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を実施し、学識経験者及び社会教育委員など関係の方々の助言及び意見などをいただき報告いたしました。

里庄町の将来像である「子どもの元気な声が響き みんなの笑顔があふれるまち」を目指し、各分野で様々な施策を行っています。教育の分野においては、「希望を持ち、豊かな心を育むまち」の基本目標のもと、関係機関との連携を図り、直面する課題と向き合いながら、目標の実現に向けて関係各種事業を実施してまいります。

その中で、今後も教育委員自らが点検及び評価をし、教育委員会を充実させ、教育委員会が町民にとって身近な存在となるよう努力し、町民に支えられた、町民のための教育行政が展開できる教育委員会となるため、引き続き努力していきたいと考えています。

資料

資料 1

令和 7 年度教育委員会会議

定例会

4 月 1 日 (火)	5 月 21 日 (水)	6 月 24 日 (火)
7 月 23 日 (水)	8 月 27 日 (水)	9 月 24 日 (水)
10 月 31 日 (金)	11 月 17 日 (月)	12 月 17 日 (水)
1 月 23 日 (金)	2 月 19 日 (木)	3 月 10 日 (火)

資料 2

教育委員が出席した主な研修会等について

◇ 第15回 中国地区市町村教育委員会連合会研修大会

7月17日 (木)	実践発表、記念講演 (ホテル グラン・ココエ倉敷)
-----------	------------------------------

◇ 里庄町教育委員会県外視察研修

11月13日 (木) ~14日 (金)	熊本県大津町教育委員会 大津町立室小学校 他
---------------------	---------------------------

◇ 岡山県市町村教育委員会委員研修会

12月1日 (月)	講演：学校における防災教育について (オンライン研修 里庄町福祉会館)
-----------	--

書面会議となったもの

◇ 岡山県市町村教育委員会連絡協議会総会

資料 3

教育委員が出席した行事等

令和 7 年 4 月 1 日 (火)	教職員着任式
令和 7 年 4 月 10 日 (木)	東・西小学校入学式
令和 7 年 4 月 11 日 (金)	中学校入学式
令和 7 年 4 月 14 日 (月)	東・西幼稚園入園式
令和 7 年 5 月 21 日 (水)	西小学校運動会
令和 7 年 5 月 23 日 (金)	東小学校運動会
令和 7 年 6 月 9 日 (月)	小川賞授与式
令和 7 年 7 月 2 日 (水)	教育委員会学校訪問
令和 7 年 8 月 15 日 (金)	平和祈念式典
令和 7 年 8 月 23 日 (土)	第31回 理化学研究所里庄セミナー
令和 7 年 8 月 31 日 (日)	仁科芳雄博士顕彰 ロボット・コンテスト2025
令和 7 年 9 月 28 日 (日)	町制施行75周年記念 第73回 里庄町民スポーツ交流大会
令和 7 年 10 月 9 日 (木)	西幼稚園運動会
令和 7 年 10 月 10 日 (金)	東幼稚園運動会
令和 7 年 10 月 15 日 (水)	中学校体育会
令和 7 年 10 月 31 日 (金)	第1回総合教育会議
令和 7 年 11 月 6 日 (木)	西小学校学習発表会
令和 7 年 11 月 18 日 (火)	東小学校学習発表会
令和 7 年 12 月 5 日 (金)	仁科賞授与式
令和 7 年 12 月 8 日 (月)	仁科芳雄博士生誕日記念科学講演会
令和 7 年 12 月 11 日 (木)	東幼稚園生活発表会
令和 7 年 12 月 12 日 (金)	西幼稚園生活発表会
令和 8 年 1 月 11 日 (日)	令和8年里庄町はたちの集い
令和 8 年 2 月 13 日 (金)	令和7年度里庄町立志の会
令和 8 年 2 月 15 日 (日)	第45回 里庄町体力づくりふれあいマラソン大会
令和 8 年 2 月 19 日 (木)	第2回総合教育会議
令和 8 年 3 月 2 日 (月)	令和7年度仁科芳雄賞授与式
令和 8 年 3 月 13 日 (金)	中学校卒業式
令和 8 年 3 月 18 日 (水)	東・西小学校卒業式
令和 8 年 3 月 19 日 (木)	東・西幼稚園卒業式

里ちゃんだより



里庄町教育委員会

電話 0865-64-7212

里庄町教育委員会 教育長 杉本 秀樹

町民の皆様方には、教育行政の推進につきまして、平素より何かと大変お世話になっております。心より感謝とお礼を申し上げます。

さて、里庄町では、「子どもの元気な声が響き みんなの笑顔があふれるまちをめざす」を基本目標として、教育行政の推進を進めております。次の時代を担う人づくりを推進するためには、学校、家庭、地域が一体となって取組を行うことがとても大切です。また、大人も子どもも夢や目標に向かって、いきいきと生活できるように、地域に根ざした、文化、芸術、スポーツ等を生涯にわたって学び、楽しむことができる環境づくりも重要となります。

学校や幼稚園においては、落ち着いた集団生活の中で、一人ひとりの子どもたちが自分のよさを伸ばしたり、友達のように気づいたりできるように指導することが大事であるとと考えています。そのためには、何よりも子どもたちの頑張りをききと見ることができ、確かに認めることのできる指導者でなくてはならないと考えています。教職員の活躍と子どもたちの健やかな成長を願い、町民の皆様方の今後とものご支援・ご協力をお願い申し上げます、ごあいさついたします。

令和7年度 里庄町の教育目標

子どもの元気な声が響き みんなの笑顔があふれるまちをめざして

- 1 生きる力を育む学校教育の充実
 - 学校教育「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」
 - ・認めること ・非認知能力の育成（里庄3シヨンプログラム）
 - ・学校給食 ・GIGAスクール
 - 家庭教育（認めること、基本的な生活習慣、しつけ、あいさつ、家庭学習）
 - 地域の人々との連携（コミュニティスクールの推進）
- 2 心豊かで生きがいを感じる生涯学習の振興
 - ・主体的に学習機会を選択して学び、その成果を社会に活かしていくことができる「生涯学習によるまちづくり」の実現 ・豊かな地域づくりに反映される生涯学習の推進
- 3 やすらぎとつながるおおいを感じる芸術・文化の振興・歴史の保存
 - ・総合文化ホール等の各施設の文化活動を充実
 - ・郷土に対する理解や愛着を深め、豊かな感性や心の育ちを促進するシビックプライドの醸成 ・世代を超えての各種文化活動や町民の文化遺産保護意識の高揚
- 4 生涯にわたるスポーツの振興
 - ・各種スポーツ活動の振興 ・スポーツ指導者の養成・確保
- 5 異なる国や地域・人との交流活動の推進
 - ・幼稚園・小・中学校における、国際理解教育、英語活動の推進
 - ・国際感覚を養う機会を提供し、多文化共生社会の実現を推進

認め続けてやる気アップ!

学校園紹介

～今年度の学校園の取組をお知らせします～

心豊かに自ら学ぶ生徒の育成を目指して

里庄中学校長 國府 道弘

「頭で思っていることを行動に移し、何かに挑戦してください。」始業式・入学式でこのように生徒に伝えて、令和7年度をスタートしました。普段の生活や学びにおいて、主体的であることが一層求められています。主体的に行動すること、何か「おもしろいこと」との出会いがあります。その「おもしろい」は fun（おもしろい・楽しい）かもしれませんし、interesting（興味深い）かもしれません。いずれにしても、それは人生を豊かにします。かけがえのない中学校3年間に有意義に過ごし、323名の生徒全員が成長すること、そして将来の Well-being（幸福であること）を切に願っています。

令和6年度は、週27時間プロジェクト・反転学習（自宅で事前に学習を行い、授業で知識を活用し、理解を深める学習）の実施・単元テストの充実・習熟度テストの定期実施など、学校のスタイル自体の大幅な変更を行いました。保護者・地域の皆様のご支援、心より感謝いたします。令和7年度はこの取組をより確かなものにすするため、そして何より、生徒たちに力をつけるため、学校評価アンケートの結果やご意見などを参考に、次に示すような重点取組項目を掲げ、全職員で取り組んで参ります。変わらぬご理解・ご協力をお願いいたします。



《R7年度 里中重点取組項目》

- ①「つづきたい力」を意識した授業作り、掲示・振り返り100%
- ②先行課題が生徒の認識「ほぼ毎日」
- ③「広がり」「深まり」を意識した「委ねる」場面の設定
- ④どんな場面でも「生徒主体」を意識

【2年生広島研修】

5/23（金）快晴、爽やかな風の中、生徒主体の行事となった広島研修でした。事前指導の運営も全て実行委員が行いました。



【1年生福山研修】

4/25（金）最大のテーマ・目標は「仲間づくり」でした。これから3年間に共にする真の仲間になれたでしょうか。



【3年生修学旅行】

4/21（月）～4/23（水）天候にも恵まれ、沖縄の自然や文化に触れ、貴重な体験をすることができました。



「心豊かでたくましく里見っ子」の育成を目指して

里庄東小学校・東幼稚園長 森延 将司

里庄東小学校は、本年度全児童304名、全16学級でスタートしました。校訓「明るく」「強く」「正しく」を原点として、「よく学ぶ子」「くじけない子」「おもいやりの子」の育成を目指します。特に、本年度は「自分事として問いをもち、課題解決をする児童の育成」と「他者とのつながりを大切にした『自己存在感』と『自己有用感』の育成」を大きな柱として、落ち着いた学習環境の中で、日々子どもたちが様々な活動に全力で取り組むことが出来る学校づくりを進めます。



(1) よく学ぶ子・・・「明るく」

- 主体的学習意欲を高める
- 互いに学び合おうとする態度を養う
- 基礎学力の定着を図る
- 表現力の向上を図る

(2) くじけない子・・・「強く」

- 自ら進んで体力向上や健康増進を図ろうとする態度を養う
- 互いに高め合い、最後までやり抜こうとする態度を養う

(3) おもいやる子・・・「正しく」

- 自己存在感と自己有用感を高める
- 他の人を大切にする言動を心がける児童及び集団に高める



心を一つにして全力で取り組む児童
～運動会 組体操～



泥遊びを思いきり楽しむ園児たち

東幼稚園は、年少り組・年長くま組を合わせて29名でスタートしました。園児が互いに関わり合い、五感を使って主体的に遊ぶことを通して、「げんきな子ども」「やさしい子ども」「がんばる子ども」「かんがえる子ども」を育てていきます。

本年度も、保護者、地域の皆様の温かいご支援と見守りをいただきながら、里庄東小学校、幼稚園ともに、教育目標「心豊かでたくましく里見っ子」の育成を推進していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

教育相談日のお知らせ

日時 毎週 月曜日・火曜日・水曜日
午前9:00～12:00 午後1:00～5:00
場所 「里庄むつみ会館」(里庄町大字里見1004番地)
お子様の学習や発達障害等について、相談を希望される方は、教育委員会事務局
☎ (0865) 64-7212までご連絡をお願いします。(ご希望日時が重なった場合、調整させていただきます。)

担当者 教育相談員 栗尾 康子

「里西っ子の『生きる力』を育てる」

～様々な相手と関わり、つながる活動を大切に～

里庄西小学校・西幼稚園長 瀧川 武史

本年度、里庄西小学校は全校児童311名、全14学級でスタートしました。「切磋琢磨」の校訓と教育目標「里西っ子の『生きる力』を育てる」のもと、めざす子ども像の「よく考え進んで学ぶ子ども」「仲良く助け合う子ども」「明るく元気な子ども」の3つを目指します。

本年度は特に、様々な相手と関わり、つながる活動を大切にしていきたいと思います。学級や学年の仲間と学び合う活動や、ファミリー(縦割り班)での活動、地域の方・異校種の子ともたちと触れ合う活動を設定し、子どもたちのよさや頑張りを確かに認めながら、自己肯定感や非認知能力を高める教育を進めます。



(1) よく考え進んで学ぶ子ども(知)

- 学ぶ楽しさ、できる喜びを感じる魅力ある授業づくり
- 基礎・基本の徹底
- 伝え合う活動の充実で表現力を育成
- 学習規律の徹底
- 意欲的に進める家庭学習の充実

(2) 仲良く助け合う子ども(徳)

- 認めて伸ばし自己肯定感を育む学習指導・学校行事
- 人・時間・協働を大切にする生徒指導
- 道徳指導の充実

(3) 明るく元気な子ども(体)

- 体力づくりの推進と健康安全の強化
- 基本的生活習慣の確立
- 食育の推進



ファミリー(縦割り班)で地域の方と
里庄音頭を踊る児童(運動会)

西幼稚園は、年少ちゅうりっぷ組・年長すみれ組を合わせて23名でスタートしました。小学校と一貫した教育目標「里西っ子の『生きる力』を育てる」を設定し、健全な心と身体を育成するためにふさわしい環境を整え、子どもたちの成長と発達、育成に努めて参ります。そして、笑顔で楽しく園生活を送り、何事にも興味・関心をもって行動できる「意欲をもつがんばる子」、相手の気持ちを考え大切にし、優しい心で関わることが出来る「思いやりのある子」、のびのびと力いっぱい体を動かし、遊びの中から学ぶことが出来る「元気な子」を育てていきます。小学校との連携を一層強化し、子どもの学びの連続性を大切にしています。

本年度も、保護者、地域、町民の皆様のご理解とご協力をいただきながら、心豊かで、たくましい里西っ子を育てていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



異年齢と一緒に遊ぶ園児



運動会練習で小学生と交流する園児

里ちゃんだより



里庄町教育委員会 電話 0865-64-7212

教育長あいさつ

里庄町教育委員会 教育長 杉本 秀樹

町民の皆様方には、教育行政の推進につきまして、何かと大変お世話になります。改めて心より感謝申し上げます。学校園では、2学期も充実した活動を行っており、子どもたちは元気に過ごしております。今年度は、インフルエンザの流行が例年よりも早くなるなど、行事の実施が予定通り行にくい状況もありましたが、家庭、地域の皆様のご理解とご協力をいただきながら教育活動を進めることができております。本場にありがとうございます。生涯学習につきましても、町民の皆様の意欲的な活動の様子が多く見られ、活力ある里庄町を皆様が作ってくださっていることに、本場にうれいしい思いでございます。これからは、公民館等をご利用いただける方々の笑顔で里庄町が明るく元気になるように、教育委員会職員も頑張りたいと考えております。

今後とも皆様のご理解とご協力を仰ぎながら、学校教育・生涯学習のさらなる推進を図ってまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

里庄町の子どもの学力について（全国、岡山県学力・学習状況調査の結果より）

今年度も、全国学力・学習状況調査、並びに岡山県学力・学習状況調査が行われました。結果の概要をお示しします。全体としては、ここ数年、全国平均と比べて上回るかほぼ同程度の状況であり、特に大きく心配する状況は見られません。

【全国学力・学習状況調査】

小学6年生	国語 全国平均を上回る 算数 全国平均を上回る 理科 全国平均を上回る
小学3年生	国語 全国平均を上回る 算数 全国平均を上回る 理科 全国平均を上回る
小学4年生	国語 全国平均を上回る 算数 全国平均を上回る
小学5年生	国語 県平均並み 算数 県平均よりやや低い
小学2年生	国語 県平均を上回る 算数 県平均を上回る 英語 県平均を上回る

引き続き、結果だけを見て一喜一憂するのではなく、子どもたちのよさや頑張りを的確に認め、自己肯定感を育みながら、一人ひとりの子どもたちがもっている力を、さらに伸ばしていくことが大切だと考えています。

里庄町では小学校と中学校が連携して、学力向上の重点目標を次の3点に決めて、充実を図っています。

- ①基礎・基本の徹底
 - ②表現力の育成（書く力）
 - ③家庭学習の充実
- 今後とも、学校・家庭・地域で力を合わせ、「豊かな心」「豊かな学力」「健やかな体」の育成に全力で取り組んでまいります。（文責 指導主事 天野正彦）

2学期のテーマ『自分から』

里庄中学校長 國府 道弘

『自分から』という話をして2学期をスタートしました。本校の生徒は、本場に素直ですばらしい生徒ばかりです。集団としての結束力もあります。これだけの力があれば、もともと主体的にいろいろなことに取り組めるとも思っています。今の生徒が生きていく時代は「VUCAの時代」と呼ばれています。VUCAとは、急速に変化して予測困難な環境を意味するワード（単語）です。誰かの指示を待っている、この時代に生きていくことは難しくなるでしょう。「自分の力で自分の道を拓く」そういう心意気が必要となります。ですから、何事も主体的に『自分から』。そういう土壌を里中に根付かせたいと思っています。

先日、新生徒会のメンバーと話をしました。『自分から』どんなことやってみようか。という私の言葉に、目を輝かせて「はい。」と力強く答えてくれました。期待大です。

1年生で取り組んでいる里庄探訪や2年生の職場体験は、現在、探究学習の一環として実施しており、まさに『自分から』主体的に取り組めば、学びが多く、将来生きて働く力が確実に身につきます。このことを意識して、各学年で現在、取組を行っているところです。地域の方々にお世話になる場面が増えてきておりますが、快くご協力いただいていることに感謝の気持ちでいっぱいです。今後ともご協力とご指導をよろしく願っています。



1年生 里庄探訪



2年生 職場体験



3年生 研究発表会

体育会 10月15日（水）

やや肌寒い曇り空でスタートした体育会でしたが、生徒たちの熱気で、予報にはなかった晴れの空。見事な秋晴れのもと体育会が行われました。整然と応援席に陣取り、話を聞く姿。学年関係なく頑張っている人を応援する姿。苦しい人が、頑張っている姿。生徒のまっすぐな一生懸命な姿に、涙が湧き出そうになりました。みんなので一つのことをやり遂げる感動が凝縮した一日でした。

皆様、本場にありがとうございました。



3年生 全員集合写真

心豊かでたくましく里見っ子の育成 ～他者とのつながりを大切に～

里庄東幼稚園・東小学校長 森延 将司



登校後、はき掃除をする6年生

今年も長かった夏が終わりを告げ、木々の葉が赤や黄色に色づきを深める季節となりました。朝、児童が登校してきた後の10分程の間に、庭に散った落ち葉をきれいに清掃してくれている6年生の自主的な姿に、成長と頼もしさを感じる毎日です。

さて、今年度、里庄東小学校では、生活科や総合的な学習の時間などを通して、身近な人々や地域の方々との交流を深め、他者とのつながりを大切にしながら「自己存在感」や「自己有用感」の育成に取り組んでいます。

<主な学習活動>

- 【1年】幼稚園児との虫とり、秋祭りへの招待
- 【2年】おもちゃランドへの招待（1年生）、町探検
- 【3年】まこもたけの栽培、大原踊り
- 【4年】菊桜について、ごみや水などの環境学習
- 【5年】幼稚園・保育園児との交流活動
- 【6年】大原焼について、町歴史民俗資料館の見学

現在6年生では、大原焼に関わる活動を通して、大原焼の魅力や受け継ごうとしている人々の思いに触れ、地域に生きる一人としての自覚をもって「自分には何ができるか」「学校や地域の人はどう伝えるか」を自己決定し、その取組の実現に向けて活動を進めているところです。特に、身近な自然や人々、地域の方々から学んだことを工夫しながら発信する場面を設定していくことを大切にしています。先日の学習発表会でも、それぞれの学年で生き生きと発表する姿が見られました。また、それぞれの取組について地域や保護者の方から感想等を返していたことで、児童自らが「誰かに認められている、誰かの役に立っている」実感をもち、それが自信となって自己存在感や自己有用感を高めたり、さらに他者と関わり合おうとする意欲につながったりしていくことを願っています。

里庄東幼稚園では、2学期が始まり、暑い中にも関わらず運動会の練習に励んできました。当日は、多くの保護者の方々温かい声援をいただきながら、もてる力を一生懸命に発揮する園児の姿が光りました。この運動会を通して、互いに励まし合い協力し合うことや、諦めずに最後まで取り組むことの大切さを学ぶことができましたように思います。

最近では、1年生の秋祭りに招待され、最初は緊張した園児（年長）でしたが、1年生のお兄さんお姉さんが優しく声をかけてくれたことで、元気にコーナーを回って手作りのおもちゃや遊べることができました。秋の自然をいっぱい使ったおもちゃやプレゼントにとっても喜び、「どんぐりめいろが楽しかった。」「困ったときに『どうしたの。』と聞いてくれてうれしかった。」「目を輝かせながら思いを伝える園児の姿が見られ、1年生への親しみや憧れ、小学校生活への期待を膨らませることのできた貴重な交流となりました。

日頃より保護者や地域の皆様には、ご理解とご協力をいただきました。よりお礼申し上げます。今後ともよろしく願っています。



学習発表会
～大原踊りを踊る3年生～



運動会～親子仲良く忍者修行～



1年生と秋祭りを楽しむ園児

様々な相手と関わり、 つながる里西っ子

里庄西幼稚園・西小学校長 瀧川 武史

里庄西小学校は、明治6年に醇成小学（明治9年より醇成小学校）として創立しました。校訓「切磋琢磨」の伝統を大切に、学校教育目標「里西っ子の生きる力の育成」に取り組んでいます。特に今年度は、様々な相手と関わり、つながる活動を大切にし、子どもたちが主体的に取り組んでいけるように支援しています。

本校では、子どもたちが主体性と協働性を発揮しながら、学び合い考えを深めていく姿を目指して取り組んでいます。ファシリター（縦割り班）での活動も充実させ、異学年の子どもたちが一緒に遊んだり、栽培活動や清掃活動を行ったりしています。また、幼稚園や保育園との交流活動や、地域の方をお招きし専門的な話を聞いたり体験したりする活動も行っています。

里庄西幼稚園では、子どもたちの興味や「やってみたい」という気持ちを大切に、遊びを通して、知識や技能、思考力、社会性、創造性などを育みます。そのための環境を整え、必要な援助の工夫に努めています。また、小学校と連携し、小学生との交流、職員間の情報交換の機会を設け、就学前後の「架け橋期」を意識した保育を行うことで、子どもの学びや生活の連続性を大切にしています。



「秋ランド」での交流



里西ふれあい交流会

11月には、里庄西幼稚園・西小学校運営協議会のメンバーを中心とした実行委員会主催で、「里西ふれあい交流会（モルック体験イベント）」を開催しました。園児や児童、保護者、そしてたくさんさんのボランティアの方が参加してくださり、交流を深めました。チームで仲良く話し合い、作戦が上手くいったときには大きな歓声が体育館に響き渡りました。

このように学校・園では、保護者や地域の方と連携して、人との関わりを大切に、豊かな学びができるように取り組んでいます。これからも園児・児童のよさや頑張りを的確に認めながら、非認知能力の向上を目指し、豊かな体験を通して、「里西っ子の生きる力を育てる」という学校・園目標の実現に努力してまいります。今後とも保護者、地域、町民の皆様のご理解とご協力をよろしく願っています。



学びの交流



まこもたけ収穫体験での交流

里ちゃんだより



里庄町教育委員会

電話 0865-64-7212

「町民の皆様、いつも本当にありがとうございます」

町民の皆様には、教育行政の推進にあたりまして、ご理解とご協力をいただき、心よりお礼を申し上げます。本年度も、町民の皆様のご協力により、様々な事業を実施することができました。ご参加いただいた方々の笑顔や元気な姿を拝見できることが、何よりも心の支えとなります。これからも、皆様のご意見をお聞きしながら、よりよい事業となるように実施していきたいと考えております。

本紙は、本年度実施した教育委員会や学校・園の事業についてお知らせしております。紙面の関係で掲載できませんでしたが、マラソン大会や、文化ホール事業（NHK ラジオ公開収録、コロッケ爆笑！スペシャルライブ）なども、多くの方に参加・ご来場いただき、喜んでいただきました。引き続き、教育委員会の職員が一丸となって、町民の皆様をはじめ、ご参加いただいた全ての方に、笑顔になっていただける事業を企画・実施していきたいと考えております。これからも、ご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

（文責：事務局長 山本 直樹）

「生きる力」向上プロジェクト “さとしよう未来塾” 里ちゃんチャレンジ・ワールド ～冒険キャンプ2025 IN 倉敷市自然の家～



キャンプファイヤー（スタンツ）

8月21日～22日に東・西小学校6年生37名が参加し、倉敷市自然の家で、豊かな自然環境の中で「本物体験」をしました。子どもたちの健康を配慮し、本年度は7月の猛暑を避け、8月下旬の実施を計画しましたが、それでもなお残暑が厳しいことから、活動内容を一部変更して行いました。

様々な体験活動を通して仲間づくりを行い、参加した子どもたちからも「東・西小学校の人が仲良くなれたおかげで中学校生活が安心できそう!!」と感想があり、暑い日でしたが、小学校最後の夏、たくさんの思い出を残すことができました。

（文責：蜂谷 真治）



プロジェクトアドベンチャー（集団育成）



そうめん流し（野外炊事）

ASE 活動（社会性育成体験活動）

里庄町の子どもの様子（スマートフォン・ゲームの実態調査より）

教育委員会では、毎年、スマートフォン・ゲームの使い方についてのアンケートを実施しています。本年度は11月に、小学4年生から中学3年生までの子どもたちに実態調査を行いました。その結果から気になる質問項目について紹介します。

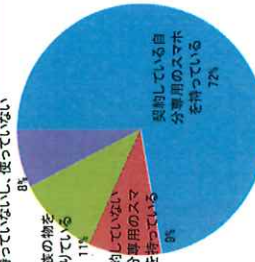
自分専用スマホ・携帯電話所持率

小学校（4年生～6年生）



自分専用のものを持っている子ども
小学校 約4割
中学校 約8割

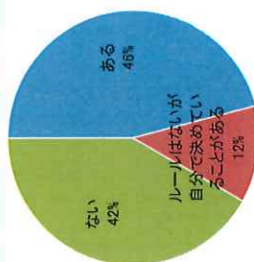
中学校（1年生～3年生）



持っていないし、使っていない

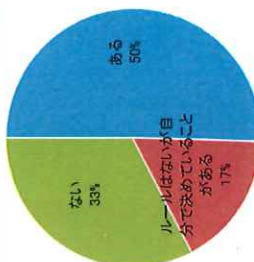
スマホ・インターネットを使うとき、家庭でルールを決めているか

小学校（4年生～6年生）



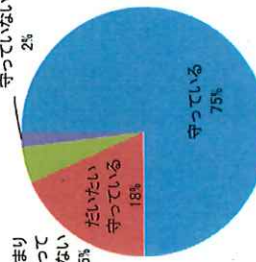
決めていない子ども
小学校 約4割
中学校 約3割

中学校（1年生～3年生）



里庄町の統一ルール（※）を守っているか

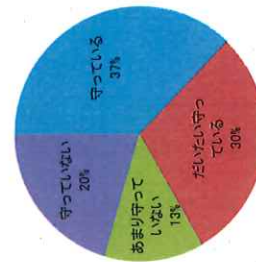
小学校（4年生～6年生）



守っている子ども
小学校 約9割
中学校 約7割

中学生になると守りにくくなる傾向がある

中学校（1年生～3年生）



※里庄町の統一ルール・・・「スマートフォン・携帯電話を使うのであれば午後9時までの使用とする。家庭の事情により、家庭内のルールが弾力的になる場合も考えられるが、友達等には、午後9時以降はメールやラインを送らないようにする。」

学校教育施設の老朽化対策の推進

学校施設は、未来を担う子どもたちが集い、生き生きと学び生活をする場です。また、地域住民にとっては生涯にわたる学習、文化、スポーツなどの活動の場であり、非常災害時には避難生活のよりどころとしての重要な役割を果たします。教育委員会では、老朽化が進んだ学校施設において、経年劣化により機能が低下してきた施設を優先し、今の学校教育に求められる機能や装備を集約した長寿命化改修や建替えなどの更新を図る老朽化対策を推進しています。（文責：淡路 尚久）



東小学校屋外トイレ棟（着手前）



東小学校屋外トイレ棟（着手前）



東小学校屋外トイレ棟（完了後）



東小学校屋外トイレ棟（完了後）



東小学校屋外トイレ内部（着手前）



東小学校屋外トイレ内部（完了後）

ニュースポーツ交流会 ～モルック～

7月13日に、里庄町生涯スポーツ「ニュースポーツ交流会」が開催されました。多種多様な生涯スポーツが増えていく中で、今大会では町民の皆様に「モルック」を実際に体験していただきました。「モルック」とは、「モルック（木の棒）」を「スキットル（目標の木の棒）」に向けて投げ、得点を競うスポーツです。生涯スポーツの醍醐味でもある老若男女を問わず、誰でも楽しめる競技となっており、小学生は、地域の大人たちと一緒に規範に駆けていくモルックに目を奪われていました。そして、スーパープレーが出るたびに、会場から歓声が上がり、勝ち負けなく選手たちは笑顔で楽しんでいました。

本年度は、分館でのイベントや西小小学校の授業でもモルックを行うなど、広がりを見せています。生涯スポーツは、健康の保持増進や人との交流を深めることを目的としています。グラウンド・ゴルフやウォーキングなど、自分に合ったスポーツを楽しむながら、日々体を動かすことで、健康の増進をはかり、地域の活性化に繋げていけるように、今後も生涯スポーツの普及に取り組んでいきたいと考えています。（文責：大植 玲）



スキットルにモルックを投げる様子



モルックの動きを見守る様子

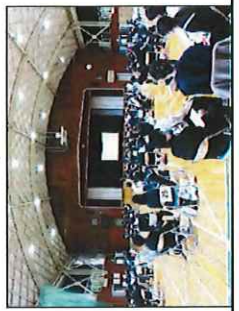
コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進 ～学校を核とした地域づくり～

教育委員会では、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度のある学校・園）と地域学校協働活動（地域の方による子どもの支援、見守りなど）を一体的に推進し、地域とともにある学校づくりに努めています。

各学校・園の学校運営協議会で子どもたちに必要な環境や、支援を話し合い、地域学校協働活動として地域の方々、PTA、教職員が手を携え一体となって活動し、学校を核とした地域づくりを進めています。（文責：蜂谷 真治）



「地域の皆様とのふれあい」
モルック大会 R7.11.8
里庄西小小学校運営協議会



「他者との対話を通して自分自身を知る」
中学生だっぴ（立志の会）R8.2.13
里庄中学校運営協議会



「学校園の環境整備」
環境美化活動 R7.5.10と10.26
里庄東小小学校運営協議会

里庄町家庭教育支援チーム「さとろんぐ」発足！

4月に里庄町家庭教育支援チーム「さとろんぐ」が発足しました。「さとろんぐ」は、チーム員6名で構成され、保護者の皆様とともに学び合う機会や保護者同士のつながりの場を作り、家庭教育力の向上を目的としています。チーム名の「さとろんぐ」は、「里庄」と「ストロング」を掛け合わせた造語で、里庄町の家庭教育を永く、力強く支援していきたいという思いが込められています。本年度は、6月に里庄東・西幼稚園の保護者を対象に、親育ち応援学習プログラム「子どもの心に寄り添うって…～子ども心の心のおくのおく、見えていきますか～」を、10月に里庄東・西小学校で、令和8年度入学生予定児童の保護者を対象に、親育ち応援学習プログラム「自分でできたよ！うれしいな～入学までに応援できること～」を実施しました。親育ち応援学習プログラムは、子どもの健やかな成長とともに、互いに子育てについて学び合い、親として育ち合うことを目的としています。参加された保護者からは「普段なかなか子どもたちの様子について、保護者同士で話す機会がないので共感できることが多々あり、共有できる時間がもてたので良かった」「小学校入学までに必要な準備がわからず不安なことが多かったが、保護者同士話し合えて良かった」などの感想をいただきました。

今後も「さとろんぐ」を中心に、家庭教育支援につながる活動に取り組んでいきます。

（文責：小野 修平）



親育ち応援学習プログラムの様子

里庄町教育委員会の重点施策

○ 学校教育の安定と充実

1 落ち着いた集団づくり

- ・ 基本的な生活習慣
- ・ 生活規律、学習規律の徹底（あいさつ、そうじ、はきもの、話の聴き方）
- ・ WEB Q U 検査（小 1 から中 3 まで年 2 回の実施）
- ・ 非認知能力アンケート結果の有効活用
- ・ 生活支援員の配置（幼・小・中で計 20 名）
- ・ 教育相談員の配置
- ・ 家庭との連携（里ちゃんだよりの発行、親学研修）

2 確かな学力をつける

- ・ 1 時間 1 時間の授業を大切にする。学習内容の確実な定着（授業改善の推進）
- ・ 全国・県学力調査の有効活用
- ・ 小中連携の取組

※里庄町の学力向上の重点目標

小中連携による落ち着いた学習環境づくりと学習意欲を高める

ための授業改善

① 基礎・基本の徹底

② 言語活動の充実による表現力の育成

（論理的に書く力・コミュニケーション力）

③ 秋田の授業を参考に（知識技能の確実な定着と話し合い活動の充実）

④ 里庄 3 ションプログラムの着実な実施と有効活用

⑤ 家庭学習の充実（自主学習を基本とした取組、復習、予習を意識）

・・・手引きの活用、生活時間調査

※相互授業参観、出前授業、体験授業の実施、合同研修会（幼稚園含む。）

- ・ 反復学習と補充学習

※朝の学習、帰りの会、サマースクールの実施

3 豊かな心、豊かな人間性の育成

- ・人権教育、道徳教育の推進
- ・家庭・地域との連携、ふるさと里庄町への郷土愛を育てる。
立志の会、二分の一成人式の取組、地域の偉人の学習
- ・生涯学習との連携（さとしょう未来塾）
- ・食堂給食の推進と活用

○ 社会教育の充実

- ・さとしょう未来塾（里ちゃん寺子屋、里ちゃんチャレンジ・ワールド）の展開
※暁天座禅、地元企業との連携事業、国際交流協会など他団体との共催事業
歴史や福祉活動の勉強や体験、地域の方々との共催事業 等
- ・子どもに豊かな心や科学的素養が育つ環境や機会を提供
※仁科芳雄博士生誕日記念科学講演会、柔道・剣道スポーツ教室、野球、
サッカーなどのスポーツ少年団、立志の会 など

○ 家庭教育の充実

- ・小学校の就学時健康診断や中学校の入学説明会の機会を利用し、子育て講座
を開催
- ・設立した家庭教育支援チーム「さとりんぐ」を中心に、ファシリテーターの
資質向上や体制の充実を図る

資料6

さとしょう未来塾

○ 里ちゃん寺子屋 参加人数

5 月 16 人	6 月 12 人	7 月 11 人	8 月 6 人
9 月 9 人	10 月 11 人	11 月 9 人	12 月 8 人
1 月 9 人	2 月 8 人	3 月 11 人	

参加者 小学校4年生から6年生及び中学校3年生 18 人

指導ボランティア 13 人（町内一般成人のみ）

1回あたり平均参加者 約 10 人

※中学校試験期間中に、中学生を対象とした寺子屋事業（特番寺子屋）を開催

○ 里ちゃんチャレンジ・ワールド 参加人数（指導者等を含む。複数回数実施は延べ人数。）

◇スポーツ教室「走る」 28 人

◇サマー・チャレンジさとしょう

・暁天座禅 316 人（4日間）

・大原焼に挑戦1・2 19 人

～こま犬、シーサーを作ろう！～

・木工作と工場探検 11 人

・めざせ！パティシエ 49 人

焼き菓子作り体験と工場見学

◇冒険キャンプ2025 IN 倉敷市自然の家 36 人

◇Satosho Halloween Party 250 人（国際交流協会事業共催）

◇わくわく科学ランド 113 人

◇しめなわ飾り作り 35 組（歴史民俗資料館ワークショップ共催）

◇岩城島積善山トレッキング 36 人（スポーツ協会トレッキング部主催事業後援）